

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372400537		
法人名	医療法人メディライフ		
事業所名	グループホームひいらぎ西ユニット		
所在地	半田市有脇町13丁目91		
自己評価作成日	令和3年9月14日	評価結果市町村受理日	令和4年2月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2372400537-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
聞き取り調査日	令和3年10月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームひいらぎは「家」にこだわって、木のぬくもり、ゆったりとした空間のなかで家族のように利用者さんと生活を共にし、笑いの絶えない家庭(一つの家で生活する家族の集まり)を作りたいと努力しています。それぞれの利用者さんの家族との絆も大切に守り、地域の方々が気楽に遊びにきて下さる雰囲気作りにも努めています。コロナ禍の中でも、感染対策に留意しながら、室内での季節感のある行事、食事作り等、職員間で意見を出し合い実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームの両ユニットが平面でつながっていることで、日常的に職員間で意見交換を行う機会をつくりながらユニット間で連携した支援が行われており、職員間で利用者に関する支援内容の検討を行い、毎日の生活が単調にならないような支援が行われている。医療面での支援については、運営母体が医療機関であることで、母体の医療機関との医療面での柔軟な支援が行われているが、ホームの隣りの場所に運営法人の関連の医療機関が開設されていることもあり、利用者の急変時にも迅速に対応することが可能な支援体制がつけられている。また、感染症問題が続いていることで地域の方との交流が困難になっているが、ホームの敷地内で2頭の山羊を飼育していることで、地域の方が日常的に山羊を見に来ており、訪問者の中には餌を差し入れる方もあり、地域の方との交流の機会にもつながる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念の共有を図っているが十分とは言えない。日常のケアは理念に沿った内容になるよう話し合っている。	ホームの理念を職員の支援の基本に考えながら、日常的な情報交換等を通じて、理念を振り返る機会をつくっている。また、理念の掲示も行われており、職員間での理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナウィルスの影響でボランティアさんや地域の行事も中止になるなど交流が行えていない。	感染症問題が続いていることで、地域の方との交流が困難になっているが、ホームの庭に山羊を飼っていることで、地域の方が山羊の餌を差し入れていただく等の交流が行われている。近隣にある福祉大学との交流も続けられている。	感染症問題が起きる前までは、地域の方との様々な交流の機会がつけられていることもあるため、今後の感染症の状況もみながら、地域の方との交流が再開されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	コロナウィルスの影響で交流ができていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	コロナ禍で令和2年3月より、書面にて運営推進会議を行なっている。運営推進会議の内容をミーティング時に共有をしている。	会議については、書面による実施が続いており、関係者にホームの現状を報告し、ホームへの理解につなげている。例年は、市職員も出席しており、定期的な意見交換が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	事故報告などの電話連絡や書面運営推進会議で、行なっている。	市担当部署との連携については、毎月のホームの現状の報告が行われており、定期的な情報交換にもつながっている。市でリモート等を活用した研修会等が行われる際には、ホームからも職員が参加する機会をつくっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	状況変化時など、職員間で話し合っている。身体拘束をしない事が当たり前だという意識でケアをしている。夜間帯に不審者がみられたこともあり21時～9時までには玄関の施錠をしている。	身体拘束を行わない方針で支援が行われており、ホーム内も施錠を行わず、職員間で連携した見守りが行われている。また、身体拘束に関する定期的な検討や職員研修も行われており、職員の振り返りにつなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待の危険性について話し防止に努めている。市の研修にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度についてあまり把握できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	利用者様や家族の不安や疑問を尋ね、十分な説明をして納得できるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	利用者様や家族などからの意見や要望に対して職員間で連絡ノート等を活用して共有をしている。家族等へはお知らせや面会時に伝える機会がある。	現状、家族との交流が困難になっているが、例年は、行事等を通じた家族との交流の機会がつくられている。家族からの要望等については、管理者や運営法人の幹部職員で対応している。また、毎月の便りの作成が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	日常的な情報交換をしている。報連相ノートも活用している。	ホームでは日常的に職員間での情報交換が行われており、職員からの意見等をホームの運営に反映する取り組みが行われている。また、職員間で役割分担を行う等、一人ひとりに責任を持ってもらう取り組みも行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員一人一人が働きやすい環境になるように話をして調整に努めている。定期的に面談を行なっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修への参加や案内を掲示し参加できるようにしている。実践者研修を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	学生の実習受け入れはしているが、コロナウィルスの影響で法人の勉強会など交流の場がなくなっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前情報を職員間で共有している。入居してからもお話を耳を傾け安心した生活をしていけるように職員間で情報共有をしながら関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に家族が不安なことや要望を話し合う場を作ることで関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ケアマネジャーとも連携し、他のサービス利用の可能性も含め話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人の意思や意見を第一に考えながら、一緒に暮らすという視点で支えあっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	コロナウィルスの影響で面会時間の制限をさせていただいているが、できるだけゆとりと過ごしていただけるよう配慮をして家族との時間を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	コロナウィルスの影響で人がいる場所への外出を中止している。予約制の面会にしている。電話ができる方は支援している。	現状、外部の方との交流が困難になっているが、利用者の中には携帯電話で交流する等、馴染みの関係の方との交流を継続している。また、家族との外出については、現状、受診時等の限られた範囲で行われている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者様同士が関わり合い、好きなこと得意なことできることを発揮しながら支えあえるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去する際、退去後もできる限りのフォローをするよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の希望や意向の把握に努めている。家族からお話を聞き情報収集をするなど努めている。	職員間で利用者に関する意向等の把握が行われており、申し送り等を通じて情報の共有が行われている。また、計画作成担当者を中心にカンファレンスを実施し、利用者の意向等を日常の支援につなげる取り組みも行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	情報シートなどから情報を共有して把握している。新たに分かったことは文章化して共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	職員同士の情報交換やノートなどを活用して状態の変化を把握することで現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	個別記録や、モニタリングの結果を反映してケアプラン作成に役立っている。	介護計画については、3か月を基本に見直しが行われており、モニタリングについても3か月で実施している。また、日常的な記録についても、アセスメントと介護計画に合わせた記録を行い、利用者の変化等の把握につなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	情報交換や個別記録をとって、現状把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人や家族の状況により臨機応変な対応ができるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	運営推進会議などを通じて地域資源の把握に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居後も本人や家族の希望や状況によりそれぞれの医療機関に受診され連携している。	運営母体が医療機関であり、関連の医療機関がホームの近隣に開設されていることもあり、利用者の健康状態に合わせた医療面での柔軟な対応が行われている。また、訪問看護による医療面での支援も行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	定期的に訪問してもらい情報提供ができている。また、確認したいことがあれば電話にて相談をしている。緊急時の連絡対応の体制もできている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	直接ないし、電話により情報交換や相談に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化が予想されるときは、本人・家族としっかり話し合い終末期について、医師、看護師も交えて説明することになっている。	身体状態が重い方もホームでの生活を継続しており、母体の医療機関とも連携しながら利用者の看取り支援も行われている。利用者の段階に合わせた家族との話し合いを重ね、意向等に合わせた対応に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	職員すべてが対応できる状態にないので、応急処置や初期対応の訓練を定期的に行う必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	緊急対応マニュアルを作成して、年に2回避難訓練を実施している。	年2回の避難訓練を実施しており、夜間を想定した訓練や通報装置の確認が行われている。水害を想定した、ホームの隣りの関連の医療機関との連携も行われている。また、ホーム内に水や食料等の備蓄品の確保が行われている。	感染症問題が続いていることで、近隣にある関連事業所との交流も中断している状況が長期化しているため、今後の感染症の状況もみながら、協力関係の取り組みにつなげることも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	一人一人の人格を尊重し、言葉がけに配慮をしている。	ホームの基本理念にも利用者を尊重した対応を行うことが掲げられており、職員間で意識するような働きかけにもつなげている。また、利用者のプライバシーにも配慮した言葉遣い等、管理者からの注意喚起等も行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者様の思いや生活ペースを大切にし、その人らしい生活が送れるよう、自己決定できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者様の思いや生活ペースを大切にしてい、その人らしい生活が送れるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	利用者様それぞれに身だしなみ、個性を大切にたおしゃれができるよう支援をしている。月に一回美容師が来てカットやカラーなどすることができる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事がより楽しみになるように、作る過程を一緒に行ったり、リクエストや盛り付けや味見などを行っている。準備、片付け等も一緒に行っている。	メニューを職員で考え、利用者の好みや嗜好等にも配慮しながら調理が行われており、利用者もできることに参加している。また、利用者の身体状態に合わせた食事形態の対応も行われており職員も一緒に食事を行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量、水分摂取量を把握して個々の適正量をすすめている。食事形態など個々に合わせ、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	できる限り食後口腔ケアの声掛け・誘導・援助をしている。就寝時には義歯をポリドントにつけて消毒をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	一人一人の排泄パターンを把握し、声掛け・誘導・援助している。	利用者自身の排泄記録を残し、日常的に情報交換を行いながら、一人ひとりに合わせた排泄支援が行われている。また、協力医や訪問看護とも排泄に関する医療面での連携も行い、トイレでの排泄が継続できるように支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	個々に水分量や運動の働きかけを通して、便秘の予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	ある程度利用者様の希望やタイミングを把握し、当日入りたくなかったときは時間をずらしたり他の方に声をかけて入浴の支援をしている。職員の配置調整をし、入浴日数が空かないようにしている。	入浴は、大曜日と金曜日に行われているが、利用者の状況等に合わせた他の曜日での対応も可能である。浴槽にリフトの設置が行われていることで、身体状態に合わせた支援も行われている。また、季節に合わせた入浴も行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	前日の夜眠れているかなど把握をしつつ、その時々状況に応じて休息を促したりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の目的や副作用を理解して、服薬の有無などは医師に相談をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家事等の役割。楽しみとしての散歩など一人一人に合った生活環境づくりに努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナウィルスの影響で外出はできていない。敷地内のヤギを見に行ったりは希望に応じて行っている。	感染症問題が続いていることで、利用者の外出が困難になっているが、利用者がホーム前の駐車場内を散歩をする等、日常的な外出が行われている。以前は、ホーム前の医療機関の喫茶コーナーに出かける等の外出支援が行われている。	利用者の外出行事が困難になっている状況が続いていることもあるため、今後の感染症の状況をみながら、利用者の外出行事が再開されることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	コロナウィルスの影響により外出する事ができず、お金を所持する機会がない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	常識的な時間内で、電話は自由に使用できる。希望時には支援をしている。人によっては携帯電話を持参しており好きなときに使用されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居心地よく過ごせるように家庭的な雰囲気意識している。また、季節感を大切にしたり飾りつけや生け花をしている。	ホーム内は木のぬくもりを大切に生活環境がつくられてあり、季節に合わせた飾り付け等と合わせて、アットホームな雰囲気がつくられている。また、ホーム内に中庭がつくられてあり、利用者が外に出て過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	カウンターや中庭や玄関や廊下などにベンチや椅子を設置するなど、思い思いに過ごせるような工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室には本人が使い慣れたものや好みのもを使用することで、居心地よく過ごせるように工夫をしている。	居室には、利用者や家族の意向等に合わせた家具類や家族の協力を得た飾り付けも行われてあり、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。ベッドは備え付けであるが、利用者の中にはベッド以外で生活している方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	一人一人のできることや分かることを活かしながら支援することで、自己選択、自己決定をして、自立した生活が送れるように支援している。		